

# 授業改善等に関する報告書（2025年前期）

## 授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Learning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を探っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2025（前期）現代生活学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
ゼミナール	須賀 由紀子	後期も皆さんで、ゼミを作っていきましょう。
ゼミナール	河井 延晃	本授業のアンケートは、回答数が規定数を超えていないため、集計不可となっています。アンケートは教員からの強制はできませんが、周知徹底を行ってゆきたいと思います。 後期は引き続き、授業内でのコメントなど行ってフィードバックに努めますので忌憚ないご意見をよろしくお願いします。
ゼミナール	倉持 一	回答者が1名であるため、個人差が出ているかもしれないが、ゼミの活動は活発であり、これまでの学びを実践の場へと移行していくことに努力している姿勢が見えている。まだ他者への遠慮など、組織としての活動に慣れていない様子もあるが、今後も引き続き鍛えていきたい。
ゼミナール	行実 洋一	全般的に極めて高い評価を得ることができた。 引き続き、学生の期待に応えられるような内容となるべく、努力を重ねたい。
ゼミナール	犬塚 潤一郎	まず学術研究の方法理解と実際の進め方を、見ながら自分のものに、ということですが、後期はいよいよ、形になるものを生み出してゆきましょう。
ゼミナール	河原 豊	授業アンケートのことについて連絡することを失念しておりました。次回は回答率が改善されるように気を付けます。後期は月ごとの目標を設定して、グループごとに進捗状況のプレゼンを行うようにします。
プロジェクト実践演習 a	須賀 由紀子 合原 勝之	皆さんで一つのテーマに取り組み、実際に学外の方に見ていただける作品を作ることができてよかったです。ものづくりの大変さと面白さを学んでいただければ幸いです。
家庭経営 a（食生活）	奈良 典子	貴重なご意見有難うございました。 今後も皆さんにとって有益となる授業展開を考えていきたいと思います。
フィールドリサーチ a	上野 亮	配布資料や説明の分かりやすさ、授業に対する満足度では十分な評価を得たと認識しております。また、成長を実感したことの回答では、レポートや資料作成の力が身についたといった回答も多く、本授業の目的は達成出来たと考えています。  本授業は1年生を対象とした授業のため、今後4年間通学することになる地域への理解を深めてもらう意味でも、日野キャンパスのある日野市やその隣接市をケーススタディに進めてきました。授業前半は定量的なデータに基づいた、地域の実情を分析してもらうことで、感覚では無く、定量データに基づく、地域の姿を理解してもらいました。授業後半は実際に地域への取材活動やそれを基にした記事作りをすることで、ウェブメディアを活用し、地域のことを発信するという経験をしてもらいました。
フィールドリサーチ b	浪崎 直子	本授業では、全14回の授業全てにおいてグループワークを取り入れ、学生同志の学び合いを重視したアクティブラーニングを実践しました。授業アンケートでは、ほぼすべての項目において全体平均を上回る結果となり、本授業の目的を十分に達成できたと考えています。また自由記述の意見も多くいただき、特に「普段特別にフォーカスはしないタンポポ、イルカなど具体的な個体について詳しく学べたのが新鮮かつ面白い授業だった」、「環境という分野で、自分や社会とのつながりを見つけることができた」、「実践的な行動をすることが多かったので、そこから思考力が身に付いた」、「主体性がとても身につく授業だと感じた」とコメントいただいたことは、嬉しいことでした。 一方で、グループでの実践の時間が足りなかつたというコメントもいただきました。今後実践の時間をより確保できるよう、模索していきたいと思います。
現代社会を読み解く a（政治と経済）	倉持 一	この授業は主に1年生の履修者が多く、現代生活学科の学術的な視点というものを「政治と経済」の観点から理解してもらうことも目指している。その意味では、アンケート結果も概ね良好であり、これまでの社会科の授業だけでは理解しきれない環境問題に潜む政治と経済の背景を理解してもらえたのではないか。
現代社会を読み解く b（生活と産業）	倉持 一 須賀 由紀子	この授業は二人の教員によって異なる視点から「生活と産業」の結びつきを理解するという構成となっている。履修者も多かったが、アンケート結果からは概ね授業の狙いや理解などは履修者に伝わっていると考える。SDGsの期限である2030年に近づく中、翌年度も基本的な授業の狙いを維持しつつ、内容をよりグローバルなものへと展開していくことを検討したい。

[2025（前期）現代生活学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
現代社会を読み解く d（科学技術と社会） 犬塚 潤一郎		内容として、現在の研究状況の先端からさらに奥を見ようとする意図をしました。そのうえで、当該技術の基礎知識がなくても重要なことが理解できるよう、かなり準備して臨んだものです。結果的に、一定の理解が得られたとみられることは幸いでした。
環境科学概論	河原 豊	授業アンケートのことについて連絡することを失念しておりました。次回は回答率が改善されるように気を付けます。講義資料を事前配布できるように努めます。一方的にならないように出来るだけレスポンを利用したいと思います。化学式を使ったときは、背景をわかりやすいように細かく説明します。環境汚染は人工化学物質が引き起こしています。生活の中に潜む化学物質汚染をわかりやすく説明していきたいです。
メディア社会概論	行実 洋一	本授業について、全般的に高い評価を得ることができた。唯一Q14の学生本人の自己評価が少し低い数字となるが、言い換えるなら、これは「この分野をもっと勉強しなければ」という向上心の表れと捉えることもできる。引き続き、学生に満足してもらえるよう研鑽していきたい。
グレートブックスセミナー 1	犬塚 潤一郎	哲学の特徴である、テキストの厳密性を取り扱う技術、対話という手法によって解釈を深める技術、この二つを中心に、授業構成をしていますが、確かな成長を自覚された方が多く頼もしく思います。さらに、オンラインディスカッションは、社会での導入も一般化しています。これにも一層慣れてほしいものと期待します。
グレートブックスセミナー 2 a	犬塚 潤一郎	取り上げたのは、一般には読まることのない、基本的に難解なテキストです。それらをある程度読みこなせるようになったことは、自信にもつながったことだと思います。
自立生活論 a（健康）	須賀 由紀子	授業をうけて「健康」に関して意識を変えることが出来た、という方も多い、嬉しく思います。授業で学んだことを、ぜひこれから的人生に活かしてください。
自立生活論 b（消費者）	倉持 一	この科目は普段から買い物をする消費者という概念を拡張し、「個人としての消費者」「社会の中における消費者」の2パートで構成されている。アンケート結果からもこの授業の狙いは履修者に届いており、また、期末テストの結果を見ても履修者は、日常だけでは思いつかない2つの立場の消費者を十分に理解できたと判断する。
少子高齢化社会 木曜配信（日野）	須賀 由紀子	少子高齢化についてこれから大切にして行くべき視点を得ていただけたと思います。少子高齢・人口減少社会をマイナスに捉えるのではなく、支え合いの新しい地域社会を切り開いていきましょう。
生活産業創出論	須賀 由紀子	生活と産業の関わり、生活産業の大切さや面白さについて、興味を持っていただけたようよかったです。学修した視点を活かし、ぜひその担い手になってください。
環境マーケティング論 a	河原 豊	授業アンケートのことについて連絡することを失念しておりました。次回は回答率が改善されるように気を付けます。講義資料を事前配布できるように努めます。一方的にならないように出来るだけレスポンを利用したいと思います。化学式を使ったときは、背景をわかりやすいように細かく説明します。
環境マーケティング論 b	倉持 一	アンケート結果から、授業の狙いは一定程度達成されたものと考えています。この科目は、「買う」という学生の立場ではなく、「売る」という企業人の立場から環境問題をいかに自社の強みに結びつけていくかを体系的に学ぶものであり、馴染みにくい内容だったかもしれません。しかし、最終課題の内容も皆的確で、履修者の努力が垣間見えた結果となっていた。
環境の化学と工学	河原 豊	授業アンケートのことについて連絡することを失念しておりました。次回は回答率が改善されるように気を付けます。講義資料を事前配布できるように努めます。物理学・熱力学の背景をさらに慎重にわかりやすいように細かく説明します。
環境経済学	倉持 一	この授業で取り扱う内容は、経済学という極めて専門的な学問領域であり、その意味では現代生活学科の学生にとっては最初は戸惑いもあったかもしれない。しかし、期末テストの結果を見ても、アンケート結果を見ても、環境経済学の基本エッセンスである、経済合理性の考え方や規模の経済の考え方を取り入れることで、いかに人間の行動が環境への悪影響として顕在化する可能性があるかを理解できたのではないか。
環境思想 a	犬塚 潤一郎	少人数で対話も多く取り入れることができ、知的な成長を実感されたこと思います。身につけられたテキスト読解の技術を、今後の学習において一層深められるようにと願います。

[2025（前期）現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
ビジネス特論 a (環境ビジネス)	河原 豊	授業アンケートのことについて連絡することを失念しておりました。次回は回答率が改善されるように気を付けます。講義資料を事前配布できるように努めます。一方的にならないように出来るだけレスポンを利用したいと思います。化学式を使ったときは、背景をわかりやすいように細かく説明します。環境事業のビジネス化は本当に難しいです。
ビジネス特論 b (地域ビジネス)	倉持 一	この授業は、ビジネスを通じて地域活性化を図ることの理論的正当性や事例検証による課題検討を行うことで、単なる地域で行われているビジネスではなく、「人と人のつながりによって地域の課題を解いていく」というコミュニティビジネスの本質を賛否両論から考えていくものであった。アンケート結果やテスト結果から見ても、履修者はこの授業の狙いを十分に理解できたと判断する。
女性社会論 a	須賀 由紀子	これからの社会や女性の生き方について、これまでとは違う視点から見つめ直すことができた、という声をいただき、嬉しく思います。ぜひ視野を広く持って、これからの生き方にも活かしていただけるとよいなと思います。
メディアコミュニケーション a	行実 洋一	全般的に極めて高い評価を得ることができた。 引き続き学生の期待に応えられる授業が提供できるよう、研鑽に努めたい。
応用メディア技術	河井 延晃	本授業は、PC演習室を利用し、座学と技術演習を往復しつつ、期末課題では各自がそれらの技術を使用して企画課題を完成させるものでした。 まずは、「15. 授業の総合満足度」については、4.75、「13. さらに学びたいか」も5.0となっており、学科の他の教員の科目と比較しても高い値になりました。 一方で、この授業に対する改善点や調査結果からの気付きについて以下まとめます。 「14. 学生による自己評価」が、本授業の中で唯一 4 を下回っています。内容を見てみると、高い評価の学生から低い評価の学生まで広く分散しています。おそらく、後半の期末課題の企画や制作は手間をかけると際限がない部分もあります。むしろ学生の意識が高いゆえに、自己評価を下げている方もいたのではないかと思います。 ただし、アンケート後に評価した「成績評価平均」を見ると、特に低いわけではないと思います。成績発表も含めて、改めて自信を持ってください。 補足しておくと、この領域は2年時以降の他の授業やゼミで実際に役にたつ技術や理論をお伝えしました。むしろ成績が良かった方は、応用や実践的に繰り返し発展させてください。 さらに、予習復習時間は学科や大学全体の他の科目平均と同程度でしたが、これら自体がやや短いものになっています。長ければ良いというものでもないのですが、これも学生によってかなりばらつきがあり、今後の授業設計に際して想定しておく必要があると考えました。 いずれにせよ、内容が盛り沢山の授業の中で、朝 1 限からお疲れまでした。
映像制作演習 b	犬塚 潤一郎	自分で調べてやれそうなことは授業で解説しない、という基本方針ですが、ちゃんと実践できましたね。技術の更新が速い世界ですから、それに応じた行動様式も身に着けて行かれますよう。
メディアプロデュース論演習	行実 洋一	件数が少なかったこともあり、極めて高い評価を得ることができた。 引き続き、学生の期待に応えられる授業となるよう研鑽していきたい。
ライフ・プランニング	犬塚 潤一郎	資料を要約するだけではなく、問題性を明らかにして解説する、その取り組みを毎週続けられたのですから、確かな前進を得られたことと思います。後期、成長の一層の加速を。